

## 学校評議員会議事録（第2回）

日 時	令和 4年12月 2日（金） 10時00分 ～ 12時00分	
会 場	北海道白糠養護学校 会議室	
出 席 者	学校評議員 3名	学校側 5名
出席者氏名	細川 和則 氏（北海道社会福祉事業団白糠学園長） 吉田 昌司 氏（白糠町保健福祉部介護福祉課長） 二階 美幸 氏（白糠町教育委員会指導室長）	校 長 仲條 正輝 教 頭 大山 伸吾 事務長 後藤 裕志 教 諭 岩井由貴子 教 諭 犬養 幸恵

### 1 学校長挨拶

8月に白糠養護学校の閉校が公表され、物品管理換等、閉校に向けた準備が本格的に始まったところである。先週、唯一の女子生徒が白糠学園を退園したため、ついに本校は男子生徒のみとなってしまい、生徒数も5名と減少する一方ではあるが、閉校までの間、引き続き教育活動を推進して参りたい。

本日は中学部並びに高等部の取り組みについて、各学部主事より説明を予定しており、評議員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

### 2 説明事項

#### （1）今年度の行事等の実施状況 ※教頭より今年度の状況についての説明

○運動会 ○全校プール学習 ○茶路小中学校、白糠高校との交流及び共同学習

○見学旅行（中学部） ○学習発表会

○今年度重点目標に関わる推進状況

（オンラインを活用したハイブリッド型の授業実践とウィズ・コロナ教育課程の編成）

・北海道肢体不自由養護学校体育大会

・遠隔社会見学（山口県：徳山動物園、山下工業所）

（キャリア発展に即した生涯学習に繋がる取組の推進）

・第41回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展応募

・手足の不自由な子ども作品コンクール出品

#### （2）中学部の取組状況 ※中学部主事より取組状況についての説明

○新学習指導要領への理解、系統的・連続的かつ教科横断的な授業について

○評価をベースにした「わかる・できる・使える」授業サイクルについて

○対面式とICT機器およびオンラインのバランスのよい有効活用について

○経験領域の拡充について

#### （3）高等部の取組状況 ※高等部主事より取組状況についての説明

○評価をベースにした「分かる・できる・使える（表す）」授業サイクルの実施、学びの質や深まりを重視した授業実践について

- 将来のよりよい生活の質を高めるために、社会自立する力、社会参加する力、主体的に選択し意思決定する力、自ら行動する力等の指導について
- 今後の取り組み～卒業に向けた取り組みと、閉校に伴う2年生の今後の進路に向けた取り組みについて

### 3 授業見学



### 4 評議

- (質問1) 閉校に伴って転校する生徒がいると聞いた。引継などはどのようになっているだろうか？
- 今まで2回、教育相談として転校予定先を訪問し、体験授業等も受けている状況です。
- (意見1) 生徒が新しい環境に慣れやすくてできるよう、回数を多くするなど配慮が必要ではないだろうか？
- 転校予定先や同行する保護者の都合を合わせる必要があって調整は困難ですが、うまく引継が行えるよう今後も努力する所存です。
- (質問2) コロナ禍によって学校現場においてタブレットパソコンが急激に普及した。特に低学年児童には操作から系統的に指導することが必要だと考えている。白糠養護学校ではどのように指導しているか知りたい。また、ゲーム等での利用について対策も行っていければ内容を知りたい。
- 機器の操作については、教員が立ち上げ、写真撮影などの操作を自分でできるという生徒もいれば、自分でパスワードを入力したりして、機器を立ち上がらせることができる生徒もおり、それぞれの実態に合った指導を行っています。情報モラルやマナーについての教育にも取り組んでいます。
- (意見2) 地域においては、タブレット機をゲームで使用している例が多く、生活リズムが乱れるなどの影響も見られている。家庭での取り組みを推奨する。
- 寄宿舎のある学校では、一定時間は学校側で保管する方法を取っていたという学校もありました。地域の実例も参考にしたいと存じます。
- (質問3) 学校の取り組みの中で紹介された「遠隔社会見学」は画期的な取り組みだと思った。このような取り組みは多くあるのだろうか？
- 同様のものは少なからず存在しますが、時間や費用などの面で制約が多いのが現状です。今回の社会見学は、新幹線の車両製作現場が紹介されるなど生徒たちが興味を持つ内容であると考え参加しました。将来的には生徒の代わりに様々な体験をして伝えてあげることができればと考えています。

5 次回予定について ※教頭より次回予定についての説明  
第3回評議員会議は2月または3月の予定である。

## 6 学校長挨拶

閉校についてお話ししたい。2月4日（土）に閉校式典を計画している。閉校に向けての物品の管理換は修了式の3月24日以降に予定している。ただし新年度にならないと他校へ渡せないものも多くあり、4月1日以降は釧路教育局に管理を引き継ぐことになる。

根釧地区特別支援教育ネットワーク協議会において、肢体不自由部門は釧路鶴野支援学校が窓口となり、実際の対応はノウハウのある釧路養護学校が担うことが予定される。

本校が従来行ってきた、肢体不自由・病弱学習会については、釧路鶴野支援学校か釧路養護学校へ引き継ぐ予定である。

学校の記念となるものや、指導要録等の重要書類は釧路鶴野支援学校へ引き継ぐことが決まっているが、それ以外でも決定しなければならないことはまだ多くあると考えている。

閉校が迫っている中で意見しづらい側面もあったと感じるが、本日の協議で貴重なご意見をいただき、感謝申し上げたい。

